協議事項（2）

「自己肯定感」を高める教育を進めるにはどうしたらよいか

◆提案理由

- ・国際調査では、諸外国に比べ日本人は自己肯定感が低いという結果である。
- ・OECD（経済協力開発機構）が行う世界的な学力調査（PISA）も、日本の高校生は自己肯定感が著しく低いという結果が出ている。
- ・鱒ヶ沢町内の小中学校でも、全国学力学習状況調査の結果から、全国平均に比べ「自己肯定感」が低い。
- ・町内の児童生徒の「自己肯定感」を高め、自分に自信をもって、たくましく生きていく人材に育てたい。

1 学校の役割

自己肯定感を高めるために学校が取り組んでいること

2 家庭の役割

自己肯定感を高めるために家庭で実践できること

3 地域の役割

自己肯定感を高めるために地域が協力できること

協議事項（3）

個性を伸ばす教育を進めるにはどうしたらよいか

◆提案理由

- ・現状の学校教育（社会）では、まだまだ学力による序列化が幅を利かせている。「勉強ができる子」がもてはやされ、「勉強のできない子」の影が薄い。
- ・古今東西、世の中に名をはせた人物には、決して勉強ができる子ではなかったが、自分の好きなことに一心に打ち込んで大成した人物が多い。
- ・学校教育は、「勉強ができる」だけでなく、その子の個性を伸ばし、様々な将来の可能性を見出してやるべきだ。

1 学校の役割

個性を伸ばすために学校が取り組んでいること

2 家庭の役割

個性を伸ばすために家庭で実践できること

3 地域の役割

個性を伸ばすために地域が協力できること

参 考

◆「自己肯定感」とは

「ありのままの自分を肯定できる感覚」で、自分と他人を比べることがなく、ありのままを受け入れ、尊重することを指す。

◆「自己肯定感」が高い人の特徴とは

- ・ 自分軸がある
- ・ 前向きに取り組める
- ・ 努力を続けられる
- ・ 失敗を恐れない
- ・ 他人に寛容

◆「自己有用感」とは

第三者から自分の存在を価値として認められることで感じる感覚で、“他者からの評価”を指す。

◆「自己有用感」が高い人の特徴とは

- ・ 物事を前向きにとらえることができる
- ・ さまざまなことに自ら取り組める
- ・ 自分以外の人の良さを認め、優しく接することができる
- ・ 周りの人に貢献する気持ちが高く、信頼されやすい
- ・ 自尊感情が高く、自信がある
- ・ 思いやりのある行動ができる
- ・ 他者と協同できる
- ・ 学習への意欲が高く、自主的・自立的な生活ができている

◆「自己肯定感」と「自己有用感」の違い

自己肯定感＝自分の自分に対する評価（自己評価）

自己有用感＝他者からの自分に対する評価（他者評価）